



ID: 1330

科目名	建築史【26年度生用】			コード			
英語表記	History of Architecture						
担当教員名	東 孝次			年度	平成26年度		
基準年次	3年次	開講期	前期	単位数	2		
授業形態	講義	授業形式	面前	履修形態	選択		
授業概要							
<p>建築の歴史を学ぶということは、我々の先人たちが、それぞれの時代において、より良い生活を営むために行ってきた様々な試行錯誤の跡を確認する作業であり、何に失敗し、それをどのように克服してきたかを検証することによって冷静な判断力を養う基本的な作業であると考え。それは一般的な知識として身につけるというより、現在という時代或いは未来が必要としている建築行為を見定めるために不可欠な身の構えであり、過去に目を向ける態度こそが建築史を学ぶ学習の大切さ(目標)である。</p>							
到達目標							
<p>(1) 建築の歴史的な流れを大きくとらえ、近未来を展望する。(2) 単なる様式に陥らないよう、政治、経済、社会、文化的分野と関連して考える。(3) 重要な遺構が歴史の流れの中でどのような位置を占めているかを理解できるように学習する。</p>							
授業計画							
第1回	建築史の学び方、建築史概観						
第2回	日本建築史 古代(建築と集落の発生、神社・仏教建築の変遷、寝殿造り)						
第3回	中世(大仏様、禅宗様、新和様、折衷様)						
第4回	近代(書院造り、数寄屋造り)						
第5回	ヨーロッパ建築史 古代(古代ギリシャ、古代ローマ)						
第6回	中世(初期キリスト教、ビザンティン、プレロマネスク)						
第7回	(ロマネスク、ゴシック)						
第8回	近世(ルネサンス、バロック、ロココ、古典主義)						
第9回	(新古典主義、歴史主義、折衷主義)						
第10回	発生から発展へ(産業革命)						
第11回	近代建築史 近代主義建築(ライト、バウハウス・ミース・コルビュジェ、ガウディ)						
第12回	コンドルの来日と日本建築家の育成 (辰野金吾、伊東忠太)						
第13回	日本における近代建築思潮。(レーモンド、村野藤吾、前川国男、丹下健三)						
第14回	戦後の近代建築						
第15回	現代建築						
評価方法及び基準			評価項目と割合(%)				
平常点50と期末試験50で評価する。小課題は各講義の要点を問題とする。			出席	授業態度	レポート	期末試験	その他
				10		50	30
授業外学習			テキスト、教材				
各時代様式の建築的特徴やその社会的背景について学習すること。			西田雅嗣・矢ヶ崎善太郎「図説建築の歴史」西洋・日本・近代」学芸出版社				
参考書			受講生へのメッセージ				
日本建築学会編『日本建築史図集』『西洋建築史図集』彰国社 藤田勝也・古賀秀策編『日本建築史』昭和堂 西田雅嗣編『ヨーロッパ建築史』昭和堂 石田潤一郎・中川理編『近代建築史』昭和堂			日本建築史、ヨーロッパ建築史、近代建築史を概観し、建築史の全体像を把握することに努める。時代洋式の建築的特徴を理解する。全体の大きな流れを把握する。				
キーワード							
建築様式、美・用・強、近代主義建築							